

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4170500161		
法人名	有限会社 ティーム		
事業所名	グループホームうらら		
所在地	佐賀県伊万里市黒川町塩屋121番地10 (電話) 0955-27-1066		
評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成 21年4月3日	評価確定日	平成 21年4月30日

【情報提供票より】(平成20年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 6月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	6 人	常勤 6 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 6 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	2 階建て	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000~36,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		900 円

(4) 利用者の概要(平成20年3月1日現在)

利用者人数	8 名	男性	4 名	女性	4 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低 65 歳	最高 94 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	世戸医院、隅田病院、唐津第一病院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>近くには、スーパー、公民館、医療機関や消防署などが立ち並ぶ、閑静な住宅街にある、グループホームである。もともとの家屋をそのままに利用しているため、地域にとけ込んだ落ち着いた雰囲気である。愛や信頼、仲間意識という、法人で掲げる理念のもと、入居者と職員の間で人格的な交わりができるようにと、支援を心がけている。また、医療的に重度化した方に対する援助もなされており、医療関係者との連携のもと、終末期への取り組みもなされている。</p>

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>地域とのつきあいや運営推進会議を活かした取り組みなど、外部との関わりの部分での改善が期待される。家族等への報告については、便りなどを活用して行われている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員で評価内容について話し合い、必要な部分については改善に取り組むなど、評価の意義を理解している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2つのホーム合同で運営推進会議を開催していたが、平成20年度は開催されていない。運営推進会議を定期的で開催され、ホームの運営に活用されることが望まれる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族等の来所時に近況報告を行い、通院後の報告や支出に関する報告等は、ホーム便りの通信欄にて報告している。また、意見箱を設置したり、家族等の来所時に意見を伺うなどして、家族等の意見を運営に反映している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の新年会や自治会への参加をし、入居者と共に福祉まつりや地区の運動会に参加するなど、地域とのつきあいに努めている。今後は運営推進会議を通して情報を収集し、地域の活動の場に積極的に出向くなど、更なる地域との連携強化を期待したい。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人格的交わりを主とし、愛と信頼に基づく自発的信頼関係を目指す」という会社の理念を持って、入居者と職員、地域との関わりを目指し、入居者の生活を支えるよう努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の教育の際や日々の話し合いの中で、管理者と職員は理念を確認し、その実現に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の新年会や自治会へ参加し、入居者と共に福祉まつりや地区の運動会に参加するなど、地域とのつきあいに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で評価内容について話し合い、必要な部分については改善に取り組むなど、評価の意義を理解している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2つのホーム合同で運営推進会議を開催していたが、平成20年度は開催されていない。	○	運営推進会議を定期的に行い、ホームの運営に活用されることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者と面談し、水害対策などの助言をもらい、解決に向けて取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の来所時に近況報告を行い、通院後の報告や支出に関する報告等は、ホーム便りの通信欄にて報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、家族等の来所時に意見を伺うなどして、家族等の意見を運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が異動等で代わる場合には、利用者にとできるだけ配慮した説明を行い、異動した職員が時折訪問するなどして安心感を与えるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、希望があれば研修を受ける機会を設けている。ホーム内研修では、日常生活における支援に関するテーマで行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアプラン担当者は地域のケアマネジャー研修会に参加したり、特別養護老人ホームでの研修会に参加するなど、交流の機会をもっている。	○	グループホーム同士の同業者での交流の機会が持っていない。今後は同業者との交流の機会を作り、サービスの質の向上に繋げていけるよう期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居までの期間に余裕がある時は、体験入居を設けて、本人や家族が納得した上でサービス利用ができるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理が得意な人からは料理を学ぶ機会もあり、ぞうり作りが得意な人からはその作り方を学ぶなど、共に生きる者として、支えあう関係づくりを目指している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の確認や日常生活での様子などから、一人ひとりの意向を伺っている。また、意向を伝えられない人については、本人の意向を反映できるように検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族等から生活に関する意向等を確認し、利用者本位の介護計画になるよう、職員同士で話し合い、作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回は介護計画を見直す機会を設け、3ヶ月に満たない場合でも、必要に応じて計画を見直し、再作成を行うようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医への通院や馴染みの美容室へ行くなど、事業所の多機能性を活かした支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関以外でも、本人や家族が希望するかかりつけ医への受診ができるよう支援している。また、緊急時には近くの協力医療機関でも受診ができるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方について、あらかじめ家族やかかりつけ医と話し合い、書面にてその方針を確認している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけなどは見受けられない。また、入居者に関する記録等もプライバシーに配慮した管理がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食の時間や入浴の促しなど、その人のペースにあわせた暮らしができるよう、支援されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嚥下に心配がある方には、とろみのある食事を提供し、糖尿病などの食事管理が必要な方には、疾患に配慮した食事を提供している。また、職員と入居者が一緒に配膳を行い、会話をしながら食事を摂られている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望に沿って、毎日の入浴が可能である。入浴のタイミングは、一人ひとりに声かけをして、希望を伺っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりの得意な作業やできる作業を把握し、入居者が役割をもって生活ができるように、声かけなどの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望に沿って、行きつけの美容院や買い物に行けるような支援をされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間は自由に入出入りができるようにしている。玄関ドアの開放時には、チャイムで察知し、外出の見守りができるようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の定期的な避難訓練を行っている。消防署が近くにあり、協力を得ながらの訓練が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や疾患にあわせた栄養管理が行われている。また、水分や食事量のチェックを行い、不足する栄養分には栄養補助食品で補うなどしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には季節の花を飾ったり、季節の飾りを並べるなど、心地よく過ごせるような工夫がなされている。また、共用空間に不快な音や光はなく、居心地の良い空間づくりがなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	たんすなど、入居者が使い慣れたものを持参してもらうなど、居心地よく生活できるような配慮がなされている。		